



## 紹介

# 地域と大学をつなぐ「宇宙カフェ」

## “Cosmic Cafe” for Bridging between Community and University

後藤 千晴<sup>1</sup>, 吉住 千亜紀<sup>2</sup>

<sup>1</sup>和歌山大学まちかどサテライト, <sup>2</sup>和歌山大学宇宙教育研究所

和歌山大学まちかどサテライトと和歌山大学宇宙教育研究所では、2011年より月に1回宇宙カフェを開催している。研究者と一般市民が気軽に双方向のコミュニケーションをとれる場であり、地域と大学の接点となる宇宙カフェについて、その内容を紹介する。

キーワード：宇宙, カフェ, 地域貢献

### 1. はじめに

和歌山大学まちかどサテライトは、2008年に和歌山市内の複合型商業施設フォルテワジマ内に「和歌山大学サテライト」として開設された。本サテライトは「地域を支え、地域に支えられる大学」として持続可能な社会の実現に寄与すべく、大学の保有する高等教育機能を活かし、地域社会と大学相互の情報交流・情報発信をはじめ、地域の人たちとのふれあいを通じて、大学と地域がともに発展するための役割を担っている。

宇宙カフェは、和歌山大学が保有する知的財産を地域に還元するとともに、「地域の知の拠点」として、地域住民、自治体、産業界、市民活動団体などから大学の信頼と存在価値を高めることができる取組みとして、2011年より和歌山大学まちかどサテライトと和歌山大学宇宙教育研究所主催で開始した<sup>1)</sup>。2012年度からは、より地域連携を促進するために、地域連携推進協定を締結している和歌山市との連携事業の一つとして展開している。

### 2. 宇宙カフェ

宇宙カフェとは、宇宙関連分野の研究者と一般市民が、飲み物片手に気軽に宇宙に関する話題について語り合うコミュニケーションの場である。日本では、2004年に京都市で最初のサイエンスカフェが開始されたのを皮切りに、とりわけ2005年春以降、財団やNPO、任意団体、行政、大学、書店、学協会など多様な団体や個人によって、さまざまなスタイルでサイエ

ンスカフェが行われている<sup>2)</sup>。サイエンスカフェの良いところは、落ち着いて形式ばらない雰囲気の中で議論でき、科学への敷居が低くなる場所である。本学では2005年に「宇宙教育研究ネットワーク」という大学組織の枠を超えたネットワーク型の教育研究グループが結成され、「サイエンスコミュニケーション」の活動を行ってきた背景がある。そこに宇宙教育研究所設立直後に迎えた「はやぶさ」探査機の地球帰還映像の撮影という大きな成果が重なり、テーマを宇宙に絞った和歌山大学独自のサイエンスカフェ、「宇宙カフェ」が生まれた。

### 3. 実施内容

和歌山大学まちかどサテライトの宇宙カフェは2011年7月に始まり、現在まで計19回実施して来た(2013年1月現在)。19回のテーマは表1の通りである。テーマは各担当教員によって決められ、その時々トピックスをテーマにすることもあれば、教育や化学、工学的な切り口から宇宙について語られることもあった。カフェは1回約90分で、その構成は各担当者にまかされていたが、おおむね話題提供+コーヒープレイク+質疑応答・意見交換のスタイルであった。また、カフェスタイルなので、参加者にはコーヒーや紅茶、茶菓子も提供された。参加者は、カフェ中はもちろんのこと、予定時間終了後もナビゲーター(話題提供者)に質問を行うなど熱心な姿が見られ宇宙に対する関心が高いことも伺えた。

表1 これまでの宇宙カフェテーマ一覧

回	開催日	ナビゲーター (話題提供者)	テーマ	開催場所	参加者数
1	2011. 7 .25	山浦 秀作	小型人工衛星 ～ますます身近になる宇宙開発～	和歌山大学まちかどサテライト	12人
2	2011. 8 .22	佐藤奈穂子	12mパラボラアンテナの見る宇宙	和歌山大学まちかどサテライト	16人
3	2011. 9 .21 (10/ 5 に延期)	石塚 亙	コーヒーカップの隣の宇宙	和歌山大学まちかどサテライト	9人
4	2011.10.28	横山 正樹	歴史の中の太陽	和歌山大学まちかどサテライト	22人
5	2011.11.25	尾久土正己	私たちは宇宙でひとりぼっちなのか？	和歌山大学まちかどサテライト	18人
6	2011.12.19	中串 孝志	あなたはどの惑星探査計画を仕分ける？ ～「惑星への夢」の適正価格～	和歌山大学まちかどサテライト	16人
7	2012. 1 .20	秋山 演亮	宇宙教育研究所のお仕事	和歌山大学まちかどサテライト	11人
8	2012. 2 .24	富田 晃彦	街中で夜空を見上げて宇宙を感じる方法	和歌山大学まちかどサテライト	15人
9	2012. 3 .19	藤垣 元治	宇宙を測る!?	和歌山大学まちかどサテライト	14人
10	2012. 4 .27	吉住千亜紀	和歌山大学で日食体験！	和歌山大学観光学部棟	13人
11	2012. 5 .25	尾久土正己	金星の太陽面通過を見よう！	和歌山大学まちかどサテライト	22人
12	2012. 6 .22	貴島 政親	人類史上最高の視力で見た宇宙！ そして地球！	和歌山大学まちかどサテライト	24人
13	2012. 7 .30	石塚 亙	星たちの通る道	和歌山大学まちかどサテライト	15人
14	2012. 8 .29	小谷 朋美	太陽系外惑星の探知	和歌山大学まちかどサテライト	20人
15	2012. 9 .24	秋山 演亮	RAIKOと小型衛星新時代	和歌山大学まちかどサテライト	14人
16	2012.10.29	中串 孝志	火星旅行を真面目に考えてみる	和歌山大学まちかどサテライト	12人
17	2012.11.19	佐藤奈穂子	和歌山パラボラアンテナ徒然草紙	和歌山大学まちかどサテライト	13人
18	2012.12.20	吉住千亜紀	新エアドームでぼよん！ ～設備・研究紹介と簡単プラネタリウム～	和歌山大学松下会館	10人
19	2013. 1 .17	富田 晃彦	保育園，幼稚園で星の話をする…	文具とカフェの店スイッチ	9人

#### 4. 話題提供者として

各回の話題提供者の調整は著者である吉住が行った。当初宇宙教育研究所に所属(専任, 兼担)する教員が11名ほどいたことから, 各人に1年間に1回担当してもらおうよう計画を立てスタートし, 途中, 担当者の都合や教員の増減による変更もあったが, おおむね計画通りに進んでいる。順番は, その時期に特に取り上げたトピックスがある場合(例えば新しく設置した12mパラボラアンテナの紹介や日食や金星の太陽面通過などの天文現象, 和歌山大学初の小型人工衛星打上げなど)にはその専門の教員に担当してもらい, その他は所属学部や専門に近い教員が連続しないよう配慮した。

実際に話題提供者となった教員に, 担当になる頻度, テーマの設定, 参加者の様子, 宇宙カフェの意義, 今後期待することなどについて意見を伺ったところ, 以下のような回答が寄せられた。

・担当になる頻度について

現在の1年に1回で適当という声が多かった。もっと多くてもよいという意見もあったが, 本宇宙カフェ以外にもさまざまな講演の機会を持っている場合, あわせるとかなりの負担になるため, 今後, 希望により回数を調整できるとよい。

・テーマの設定, 参加者の様子について

他の回と話題がかぶらないようにするのが苦労するという意見があった。必要があれば他の回の様子を見られるよう毎回ビデオ撮影をしているが, 今後, 簡単な概要一覧を作成したい。

他に, センセーショナルで社会的な話題になりそうなテーマが参加者の興味関心が高いように思う, 体験型にする, などの意見があった。どちらも宇宙カフェならではの, 参加者との双方向のコミュニケーションを引き出すための工夫であろう。とはいっても, やはり一方的な“講演”になってしまうことも多い。これはテーマの設定だけでなく, 話題提供者・参加者両者

の意識によるところが大きい。参加者は他の地域と比較しておとなしいという声も多かった。しかし、至近距離で表情を見ていると熱心であることもわかる。参加者の声を引き出し話題提供者とつなぐファシリテーター（進行役）をおくべきだという意見もあり、今後検討したい。

・宇宙カフェの意義、今後期待することについて

大学でない場所へ自ら出向き、双方向の距離の近いコミュニケーションがとれ、参加者の率直な意見を聞くことができる貴重な場であるということは、誰もが感じているだろう。それに付け加えて、地元からの参加者が多く新たなつながりを発見できる場である、常連さんは地元大学を応援してくれる大学サポーターになってくれる期待もできる、研究者としての自分の仕事を一市民として別の角度から見る機会になる、という意見もあった。

今後、さらに回数を重ね、和歌山市内における宇宙カフェを充実・定着させるとともに、本学の他のサテライトとも連携し、活動の地域や幅を広げたい。

5. 参加者アンケートより

宇宙カフェでは毎回参加者にアンケートを実施している。その結果を図1～4に示す。図1より、現在までの宇宙カフェ参加者の約8割は男性である。2011年度は8割以上が男性であったが、2012年度は女性の参加者が増え、男性7割、女性3割となっている。図2からは参加者の年齢層が伺える。20代の参加者がやや少ないが、おおむねどの年代にも参加してもらえている。特に2012年度は20代未満の参加者が増加し、幅広い世代に受け入れられていることがわかる。

図3では参加動機について示す。やはり宇宙に興味がある参加者が半数を占めている。話題提供者への質問内容も、難しいものが多く、普段から宇宙に興味・関心を持っていることが伺える。それだけ宇宙とは未知の世界で多くの人が興味を持つ分野であるということだろう。最後に図4に参加者の満足度を示す。「非常に満足」「おおむね満足」を合わせると9割以上が宇宙カフェの内容に満足している。大学での講義と違い、専門家との距離が近く、コミュニケーションがとりやすいこと、またこの宇宙カフェだからこそ聞く事のできる話があることなどが、参加者にとって楽しく満足のいく点ではないかと思われる。参加者からは「宇宙

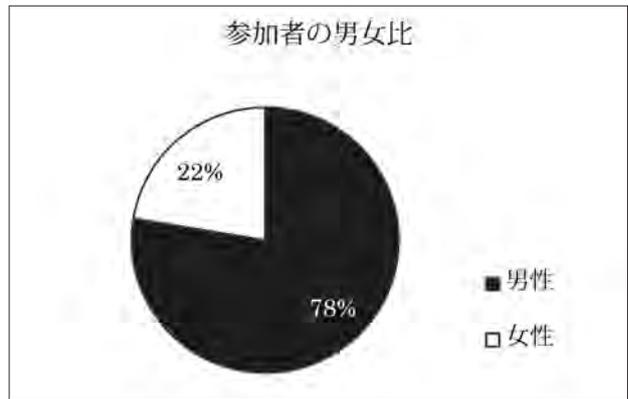


図1 参加者の男女比

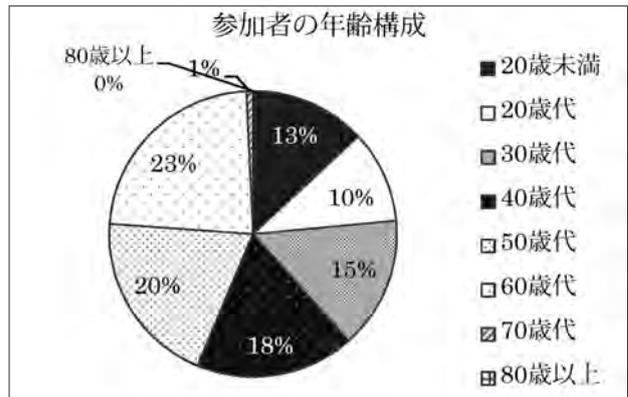


図2 参加者の年齢構成

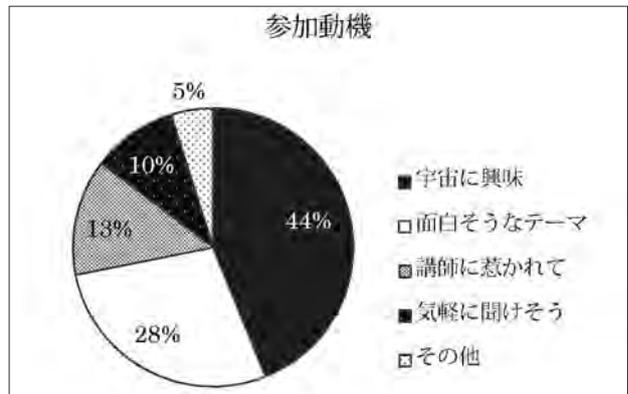


図3 宇宙カフェ参加動機

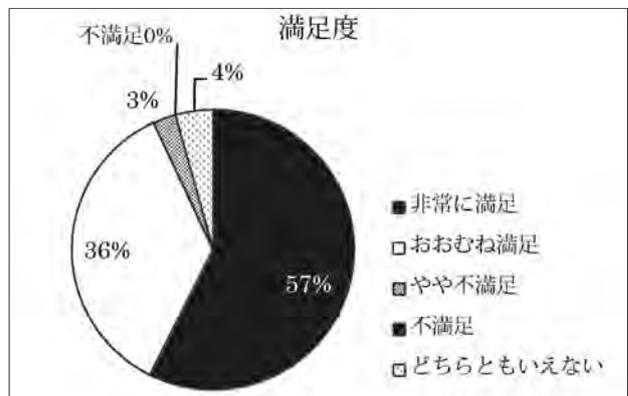


図4 内容に対する満足度

物理」や「原子論」など専門的な話を聞きたいという意見もあるが、「天文学や科学全般に興味を持てた」「一部難しいところもあるがわくわくする話で楽しい」といった感想が最も多く寄せられている。また、和歌山大学の研究や取組みを知り、「和歌山大学を応援したい」という声や、大学の他の講座や学部開放授業などにも参加したいという声もあり、和歌山大学に対する地域の人々の関心の高まりを感じるものもある。

## 6. まとめ

図5～7に宇宙カフェの案内ポスター、話題提供物、様子を示す。参加者は平均15名程度でリピーター率が高いが、テーマに応じて毎回必ず新規参加者もいる。2012年度から和歌山市との連携事業の一つとして実施することで、2011年度に比べ広報ツールが増えたことや、金環日食や金星の太陽面通過など注目を集める天文現象があったこともあり、宇宙に関心を持つ中学生や高校生の参加者が増加している。これは本学の7つの行動宣言の一つ、「中学生・高校生があこがれと入学への希望をもてる大学」に貢献できる有益な内容であると考えられる。今後はさらに若年層や女性の参加を促すとともに、参加者同士の交流を促進し、自主的に企画を行ってくれるような仕掛けをしていきたい。また、和歌山大学まちかどサテライトが2012年11月末日をもって地域連携・生涯学習センター内へ移転したが、まちなかの喫茶店やカフェを開催場所として利用することで、市民が楽しめるまちなかを作る一翼を担っていきたいと考える。



図7 カフェの様子

## 引用・参考文献

- 1) 平成23(2011)年度和歌山大学まちかどサテライト地域連携事業報告(2012年7月)
- 2) 中村征樹,「サイエンスカフェ：現状と課題」, 科学技術社会論研究, 第5号, pp.31-43, 2008年7月
- 3) 和歌山大学宇宙教育研究所紀要第1号(2012年3月)



図5 案内ポスター



図6 話題提供物